

学習評価の在り方① ～評価の3観点～



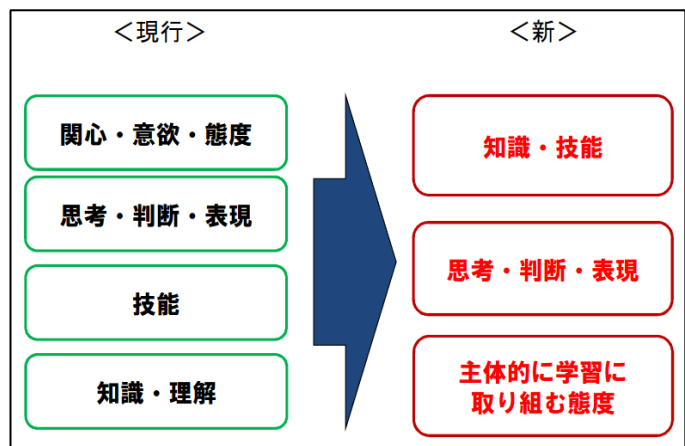
令和4年度から新学習指導要領が実施されるけど、高校での学習評価の枠組みが変わるって本当？



「観点別学習状況の評価」の更なる充実が求められているんだ。評価の観点が整理され、指導要録にも観点別学習状況の評価を記載する欄が設けられるんだ！

評価の3観点

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されています。



指導要録の様式変更

様式2 (指導に関する記録)		学年		学年				学年				学年			
生徒氏名		学校名		学年				学年				学年			
各教科・科目毎		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年			
国語	現代の国語	AAA	5												
英語															
歴史															
公民															
数学															
理科															
体育															
音楽															
美術															
家庭															
保健															
職業															
総合															
外国語															
道徳															

第1学年		
学習状況	観点別	修得単位数
AAA	5	2

従来の評価、修得単位数に加えて、「観点別学習状況」欄を新設

高等学校における観点別学習状況の評価を更に充実させ、その質を高める観点から、指導要録の参考様式が改善されました。

学習評価の在り方② ～評価の基本構造～

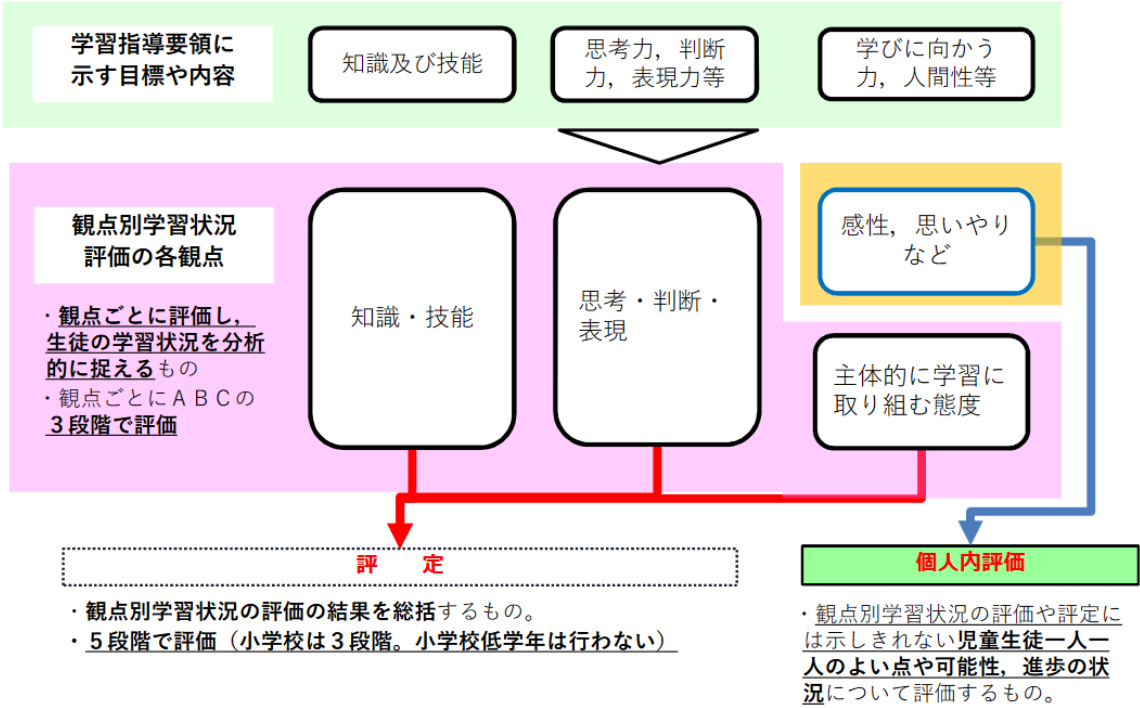


具体的にはどのような評価の枠組みになるのかな？



各教科での評価は、学習指導要領に示す目標や内容に照らして、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに学習状況を評価するものになるよ！

評価の基本構造



評価を行う場面の精選

観点別学習状況の評価に係る記録は、毎回の授業ではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選します。ただし、日々の授業における生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です。

参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（文部科学省 国立教育政策研究所）
学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）（文部科学省 国立教育政策研究所）

学習評価の在り方③ ～ 3観点の評価方法～

3つの観点は、それぞれペーパーテストだけで評価していいのかな？

それぞれに適した評価場面と方法を用いて、「十分に満足できる」状況をA、「おおむね満足できる」状況をB、「努力を要する」状況をCのように区別して評価するよ！



「観点別学習状況の評価」の3観点の評価方法

知識・技能

○個別の知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

<評価の工夫(例)>

- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・生徒に文章で説明をさせる。
 - ・観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

思考・判断・表現

○各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか評価します。

<評価の工夫(例)>

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

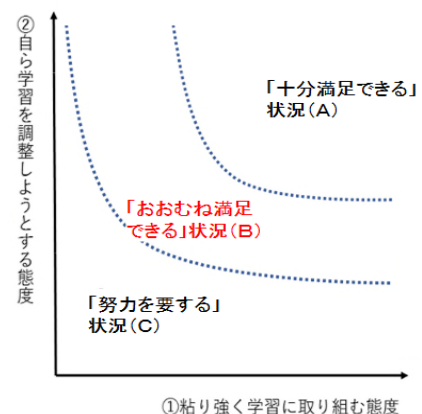
主体的に学習に取り組む態度

○この観点は、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価をします。

<評価の工夫(例)>

- ノートやレポート等における記述。
- 授業中の発言や行動の観察。
- 生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ



学習評価の在り方④ ～評価の進め方～

評価の方法は授業を終えた後に考えればいいのかな？



まず、単元の目標と評価規準を作成して、それから指導と評価計画の作成を行うといいよ！



評価の進め方

<評価の進め方>

1 単元の目標を作成する

2 単元の評価規準を作成する

3 「指導と評価の計画」を作成する

授業を行う

4 観点ごとに総括する

<留意点>

○学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。

○生徒の実態、前單元までの学習状況等を踏まえて作成する。

○1、2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。

○どのような評価資料（生徒の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

○3に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

○集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

学習評価の在り方⑤ ～今できることは～

令和4年度の新学習指導要領実施に向けて、今できることは何なのかな？

まず、新学習指導要領と評価に関する資料を読み込むこと、そして学校全体で組織的に授業改善に取り組むことだね！

学習指導要領・学習評価の資料

<資料>

- ①学習指導要領
- ②学習評価の在り方ハンドブック
- ③「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
(高等学校版が今後公表される予定)

※文部科学省・国立教育政策研究所のHPからダウンロードできます。



学校全体としての組織的かつ計画的な取組

教師の勤務負担軽減を図りながら学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行うことが重要です。

※例えば以下の取組が考えられます。

- ・ 教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化
- ・ 実践事例の蓄積・共有
- ・ 評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上
- ・ 校内組織（学年会や教科等部会等）の活用